

中学校英語教育における CEFR/CEFR-J の活用

野島 ゆい

1 はじめに

本章では、中学校における教科英語の達成目標として、CEFR および CEFR-J の言語習熟到達度指標を適用することについて考察する。CEFR や CEFR-J といった共通参照枠を、各学校や各授業における生徒の達成目標として適用することの最大の利点は、学校や授業者（指導者）の違いによることなく、一定の尺度で個々の生徒の英語力を計り、公平に示すことができることである。また、共通参照枠として CEFR および CEFR-J を採択するのは、これらの内容が、言語の構造のみでなく、言語の概念 (notion) と機能 (function) に焦点を当て、「言語使用者」としての学習者が「何をどの程度できればよいか」という目標を明確に示したものであるためである。近年、日本では、英語をコミュニケーションのツールとして捉え、「聞く」「読む」「話す」「書く」という4技能の総合的な習得が不可欠であるとされている。現行の中学校学習指導要領においても、「英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養う（文部科学省 p.105）」ことが目標とされ、その指導の過程では「言語の使用場面や言語の働きを取り上げる（文部科学省 pp.106-107）」ことが求められている。その点で、学校における英語教育の到達目標として、「適切にコミュニケーションをするための言語運用能力」の段階を示す CEFR や CEFR-J の指標を適用することは妥当であると考えられる。

2 中学校における英語到達目標レベル(提案)

中学校英語の到達目標として適用するレベルは、CEFR における A1~A2、CEFR-J における A1.2~A2.2 とすることを提案したい。その根拠として、(1) 中学校学習指導要領が示す目標との整合性、(2) 現在、公立中学校で使用されている検定教科書の内容との整合性を示す。

2.1 中学校学習指導要領目標との整合性

CEFR の A1 および A2 レベルは「基礎段階の言語使用者」が達成すべき目標を示したものである。このレベルでは、学習者自身や学習者の身の回りの人物・出来事について、具体的・直接的な内容を扱い、日常的・基本的な表現を用いてコミュニケーションをとることができることを目指している。これは、まさに中学校学習指導要領外国語（文部科学省 2008 年）の目標である「コミュニケーション能力の基礎を養う」という内容にあたる

ものと考えられる。また、同指導要領「英語」の目標にある「初歩的な英語を用いて（文部科学省 p.105）」という部分は、CEFR の A レベルで求められる「日常的で基本的な表現」と重なる。さらに、学習指導要領では、指導にあたって配慮すべきこととして、言語活動を行わせる際は、「自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること」と明記されている（文部科学省 p.107）。このことから、CEFR の A1~A2 レベルを中学校における英語到達目標に適用することが妥当であると言える。【資料 1】

CEFR と比べて、CEFR-J では、初級者が圧倒的に多い日本人の学習者の実態に合わせて、到達度目標のレベルがより細分化されて示されている（投野 2013, p.93）。同じ A1 レベルであっても、A1.1 レベルは、Pre-A1 レベルと同様に、基本的な表現を用いてコミュニケーションする前の「ごく初期の導入段階」の内容である（投野 2013, p.93）。よって、Pre-A1 ~A1.1 レベルに関しては、日本の小学校における英語教育で扱うべき内容であると考え、A1.2~を中学校の目標とすることを提案することとした。

その上で、CEFR-J の内容と学習指導要領との整合性を考察すると、学習指導要領が「言語活動の取扱い」の中で示す「言語の使用場面の例」および「言語の働きの例」の内容と、CEFR-JA1.2~A2.2 レベルのディスクリプタに示されているトピックやタスクの内容は概ね合致することが分かる。【資料 2】よって、CEFR-J の A1.2~A2.2 レベルを中学校における英語到達目標に適用することは妥当であると判断できる。

2.2 検定教科書との整合性

CEFR と中学校英語の検定教科書の内容が適合するかを考察するにあたっては、CEFR Self-Assessment Grid を用いる。この指標は、CEFR の各スケールのより詳細な設定が記述されているもので、CEFR-J はこのリスト化された CAN-DO 記述に基づいて作成されている（投野 98）。また、現在使用されている検定教科書の例として、平成 28 年度版の *NEW HORIZON* を取り上げる。特に、CEFR と比較する対象として、教員向けの資料『平成 28 年度版 *NEW HORIZON* 目標と評価の明確化「CAN-DO リスト」作成のために』に示されている『「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標』を参照する。【資料 3】

上述の 3 つの指標を並べると、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」すべての技能において、扱うトピックやタスク、程度や難易度は概ね共通していることが分かる。資料 3 は 4 技能のうち「聞くこと」について示したものだが、これを見ると、聞き取りや理解が目指される音声は、学習者にとって“basic” “familiar” “personal” “simple” “concrete” なものであると CEFR の記述が示している。このことは、CEFR-J では、「身近な」「自分自身や自分の家族・学校・地域などの」「短い」「簡潔な」「明確で具体的な」と表され、*NEW HORIZON* の学習到達目標では「短く初歩的な」という表現に反映されている。扱われるトピックについては、CEFR-J で具体的に、「趣味やスポーツ、部活動」「日常生活」「買い物や外食」「公共の乗り物や駅や空港のアナウンス」等が挙げられている。

これらは、*NEW HORIZON* の「CM」「ラジオ」「友達の自己紹介」「思い出の行事」「交通事情」「天気予報」「空港や機内での放送」等と重なる。

以上のことから、中学3年間という大きな枠で捉えた場合の到達目標として、CEFR および CEFR-J の到達度指標を用いることは適切であると言える。ただし、検定教科書には、3年次目標の「日本文化や世界の国の文化についてのスピーチ」や「議論での話者の主張」など、一部、CEFR の A レベルを超える発展的な内容も含まれている。また、学習指導要領では、「言語の使用場面」「言語の働き」の例や、扱うべき「言語材料」は示されているが、あくまでも3年間を通して扱うものとして提示されていて、それぞれの難易度や習得順序は示されていない。よって、各検定教科書はそれぞれ独自の配列によって、言語の働きや言語材料を扱っており、それらは CEFR や CEFR-J の示すレベル（難易度設定）と必ずしも一致しない。【資料4】これらの点は、CEFR および CEFR-J を中学校英語の到達目標として用いる場合、教科書の在り方や扱い方を再考する必要性を示唆している。

3 CEFR および CEFR-J を到達目標とした際の教授法

CEFR および CEFR-J を到達目標とした場合、それらの達成を目指す指導（教授法）は、Communicative Approach によるものであるべきである。その理由は、CEFR の言語観および言語教育観に求めることができる。

CEFR の言語観および言語教育観は行動指向アプローチ（action-oriented approach）に基づいている（投野 2013, p.11）。行動指向アプローチとは、「言語使用者をある特定の社会において行動する社会的な存在であると捉え、発話行為は、特定の活動領域において言語使用者がなすべき目的を達成するために行う言語活動であると考え

る」ものである（投野 2013, p.13）。よって、言語の学習者は、その言語の使用者として、「言語によるコミュニケーションを効果的に用いて目的達成を目指す（投野 2013, p.13）」能力を育成することが期待されている。また、行動指向アプローチでは「言語学習も言語使用の1つであると考えられている（投野 2013, p.13）」ため、その教授・学習の過程においても、該当言語によるコミュニケーションが効果的かつ活発に行われることが望ましい。

さらに、英語という言語について、CEFR・CEFR-J に基づいて中学校での授業および学習を考える場合、Communicative Approach の中でも特に Task-Based Language Teaching の考え方や手法が有効であると考えられる。そもそも、CEFR のディスクリプタには原則として、①どのようなタスクができるか、②どのような言語の質でできるか、③どのような条件下でできるかという3要素が含まれている（投野 2013, p.102）。よって、授業において、実生活で起こり得る自然な言語使用の活動をタスクとして生徒に課し、そのタスク（＝行動目標＝言語使用の目的）の達成を図る中で、それぞれの言語コミュニケーション能力を向上させることは、まさに CEFR、CEFR-J および学習指導要領の目指す「実践的な言語運用能力」を育成することに等しい。

4 言語材料(文法・語彙)の扱い

CEFR や CEFR-J を基盤として、実践的なコミュニケーションを主眼とした英語教育を行うことを考えると、言語材料、つまり文法や語彙の指導が軽視される印象を与がちであるが、言語の学習者（使用者）が言語を適切に運用するためには、文法や語彙の習得が不可欠である。CAN-DO 形式で示される CEFR や CEFR-J の達成度指標には、それぞれのタスク達成のために用いることが想定される文法や語彙は明示されていないが、「実際のタスクを作成する際にはその「できること」に見合った語彙や文法を CAN-DO に紐づけて、タスクの難易度をコントロール」する必要がある（投野 2017, p.28）。そこで有効なのが「Reference Level Descriptions（参照レベル記述、以下 RLD）」である。

RLD とは、各言語における CEFR レベル別の語彙・文法のリストのことで、CEFR の CAN-DO リストに基づいた外国語教育を具体化する際に作成・参照することが推奨されているものである（投野 2017, p.28）。主要な英語の RLD 資料には、①British Council の *EAQUALS Core Inventory for General English* (2010) ②ケンブリッジ大学が中心となって作成している *English Profile (Grammar / Vocabulary)* ③Pearson の独自スケールである GSE に基づく *Pearson Global Scale of English Learning Objectives* (2015-) ④CEFR-J プロジェクトの一環で作成された *CEFR-J Grammar / Text / Error Profile* (2016-) などがある（投野 2017, p.29）が、今回は①の RLD を参照する。

このような RLD 資料を活用することで、それぞれのタスク活動を行う際に必要となる、もしくは注目すべき、文法や語彙が明確になり、またそれらの難易度によってタスクの難易度を調節することが可能となる。しかし、ここで忘れてはならないのは、「文法・語彙学習のためにタスクを設定する」のではなく、「タスク達成のために有効な文法・語彙を結びつける」という視点である。実践的な言語使用の場面を考えると、1つのタスクを達成するためには、様々な表現や方法を用いることが可能である。RLD 等で示される文法や語彙は、あくまでもそのタスク達成のために有効であるというだけで、その使用が義務付けられるものではないということを、学習者と指導者双方が認識しておくことが重要である。

また、文法・語彙を結びつけやすいのは「話すこと」「書くこと」などの発信技能の CAN-DO である（英語教育 投野 28）という点も一考に値する。例えば、①British Council の *EAQUALS Core Inventory for General English* (2010) では、A2 レベルの機能表現の一つとして「要求する (request)」がリストされており、それに該当する英語表現として“Can you open the window?” など英文が例示されている。そこから、「人に何かを要求する・頼む」というタスクに、「依頼」を表す助動詞 can の用法を結びつけることが考えられる。一方、「聞くこと」「読むこと」などの受信技能の CAN-DO は多くの場合、文法項目との対応に向かない。その理由を投野は次のように説明している。

受信技能の CAN-DO は「～が理解できる (I can understand...)」という形式のデ

ィスクリプタが大半で、どのような種類のテキスト (text type) に接するかが中心である。よって、難易度調整も「どのような長さ・複雑さ・語彙レベルのテキストを読むか」「どのくらいの精度 (詳細・概要・要点など) や速さで読むか」という観点で行われ、特定の文法事項などは含まれない。(投野 2017, p.30)

よって、5技能すべての CAN-DO に文法・語彙を結びつける必要はなく、特に受信技能については、受信するテキストの特性を CEFR の各レベルと照らして、タスクの設定および難易度調整をすることが望ましいと言える。

5 指導／活動の例

最後に CEFR および CEFR-J を到達目標にした場合の指導／活動の例を以下に挙げる。

- (1) Task Type : Problem Solving
- (2) Level : CEFR : A2 / CEFR-J : A2.2 / 中学 3 年生
- (3) Skills and CAN-DO :

Reading	I can understand short simple personal letters.(CEFR : A2) 生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 (CEFR-J : A2.2 ②)
Writing	I can write a very simple personal letter, for example thanking someone for something. (CEFR : A2) 聞いたり読んだりした内容 (生活や文化の紹介などの説明や物語) であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。(CEFR-J : A2.2 ②)
Speaking - Interaction	I can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar topics and activities.(CEFR : A2) 簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。 (CEFR-J : A2.2 ①)

- (4) Source : written : correspondence : informal letters : short & simple (A2)
- (5) Function : advice / obligation and necessity (A2)
- (6) Grammar : modals: obligation and Necessity: must /mustn't/have to/ should (A2)
- (7) Topic : education / work and jobs / hobbies and pastimes (A2)

※ (4) ~ (7) のレベル表記は Core Inventory for General English(British Council)より

(8) Procedures :

Pre-task Activities

① Ask students what they have to do and what they want to do during a week.

OR

How were the tests? / How well did you prepare for the tests? / What did you have to do during the week before the tests? / What did you want to do during the week before the tests?

*Write down what students say on the black board (: recasting)

② Show a picture. --- Everyone has 24 hours. We have to think how to use the time.

③ Let students guess the topic : time management

④ Let students read **a letter from "Busy Bee"**

⑤ Check the understanding by asking some questions:

- Is he excited with his school life? ---No.
- Why? ---- He is very busy.
- Why is he so busy? --- He has a lot of HW, club activities...
- Does his club have a day off in a week? --- No.
- What else does he like to do in his free time? ---using the Internet, play video games, hang out with his friends.

⑥ Teach some vocabulary: manage(ment), effective(ly), balance ---

*Use some pictures to help students understand the meanings of the words

Task Activities (Directions)

① Work in groups of 4 or 5.

② Discuss what "Busy Bee" can do to manage his time.

③ Produce as many ideas as you can and write them down on your group worksheet.

④ Choose 3 ideas which you think the most effective.

⑤ Make a poster: Write a letter to "Busy Bee" to give him advice on how to manage his time.

*Have to include the 3 ideas you choose in your group.

*Can use some expressions below to give advice

Example

You should

You have to

You can

It is [important / necessary / good / bad / effective / ---] (for you) to ~

It is too --- to ~

It is --- enough to ~

Post-task Activities (Directions)

- ① Put your poster on the wall.
- ② Walk around the classroom with your group members and read every poster.
Discuss the ideas on each poster and put marks on the ideas you like or agree.

<配布プリント>

Dear Mr. Cool Cucumber,



Hi. I am a 15 years-old boy living in Tokyo. I am in the third year of junior high school in Nerima. My school is new and a little special. I took an entrance examination and passed it to enter this school. I was really looking forward to my school life here. However, it hasn't been as amazing as I thought. I am not so happy because I am very busy.

First, I have a lot of homework every day. Also it is necessary for me to review the lessons that I take each day. It takes 2 or 3 hours for me to finish them all. In addition, my English teacher gives us a lot of extra homework for each weekend.

Also, I belong to a basketball club at school. Mr. Matsumoto who is in charge of our club always tells us to practice as hard as we can, and he doesn't allow us to take a day off. I understand that it is important for us to practice hard to win games. So I want to try to do my best. However, it is difficult for me to balance study and club activity.

Actually, I like using the Internet. If I have some free time, I often do netsurfing or chatting with some online friends. I like to play video games, too. Sometimes, I want to hang out with my friends after school or on weekends.

See? I have a lot of things to do. I am too busy to do all these things in my daily life. I want to know how to manage my time effectively. I have so many more problems, but maybe this is the biggest one. I would very much like you to give some advice to me! Please help me!

Desperate for advice,
Busy Bee



【資料 1】

CEFR Global Scale		中学校学習指導要領「外国語」 平成20年3月告示
A1	Can understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases aimed at the satisfaction of needs of a concrete type. Can introduce him/herself and others and can ask and answer questions about personal details such as where he/she lives, people he/she knows and things he/she has. Can interact in a simple way provided the other person talks slowly and clearly and is prepared to help.	<p>【目標】</p> <p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーションの基礎を養う。</p> <p>【各言語の目標及び内容等：英語】</p> <p>1. 目標</p> <p>(1) 初歩的な英語を聞いて、話し手の意向などを理解できるようにする。</p> <p>(2) 初歩的な英語を用いて、自分の考えなどを話すことができるようにする。</p> <p>(3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。</p> <p>(4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどをかくことができるようにする。</p>
A2	Can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance (e.g. very basic personal and family information, shopping, local geography, employment). Can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters. Can describe in simple terms aspects of his/her background, immediate environment and matters in areas of immediate need.	

【資料2】

CEFR Global Scale (日本語版)		CEFR-J 例 「話すこと (やりとり)」		中学校学習指導要領 「外国語」
A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟をだしてくれるなら簡単なやりとりをすることができる。	A1.2	①基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に応答することができる。 ②スポーツや食べ物などの好き嫌いなどのとてもなじみのあるトピックに関して、はっきり話されれば、限られたレパトリーを使って、簡単な意見交換をすることができる。	<p>【言語の使用場面の例】</p> <p>a 特有の表現がよく使われる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ・自己紹介・電話での応答 ・買い物・道案内・旅行・食事 など <p>b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活・学校での学習や活動 ・地域の行事 など <p>【言語の働きの例】</p> <p>a コミュニケーションを円滑にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼び掛ける・相づちをうつ・聞き直す ・繰り返す など <p>b 気持ちを伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼を言う・苦情を言う・褒める ・謝る など <p>c 情報を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明する・報告する・発表する ・描写する など <p>d 考えや意図を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し出る・約束する・意見を言う ・賛成する・反対する・承諾する ・断る など <p>e 相手の行動を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問する・依頼する・招待する など <p>【配慮事項】</p> <p>…自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。</p>
		A1.3	①趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。 ②基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。	
A2	ごく基本的な個人的情報や家庭情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係のある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。	A2.1	①順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。 ②補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。	
		A2.2	①簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。 ②予測できる日常的な状況(郵便局・駅・店など)ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。	

【資料3】 一聞くこと

CEFR Self-Assessment Grid		CEFR-J		検定教科書の学習到達目標 NEW HORIZON	
A1	I can recognise familiar words and very basic phrases concerning myself, my family and immediate concrete surroundings when people speak slowly and clearly.	A1.2	①趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。 ②日常生活の身近なトピックについての話を、ゆっくりはっきりと話されれば、場所や時間等の具体的な情報を聞きとることができる。	1年	短く初歩的な表現をくり返し用いたCMや、友達の自己紹介、初歩的な語彙や表現を用いた交通情報や、友達の一日の生活についてのスピーチ、初歩的な語彙や表現で話されるラジオDJや、友達の思い出の行事についてのスピーチを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。
		A1.3	①ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。 ②(買い物や外食などで)簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。		
A2	I can understand phrases and the highest frequency vocabulary related to areas of most immediate personal relevance (e.g. very basic personal and family information, shopping, local area, employment). I can catch the main point in short, clear, simple messages and announcements.	A2.1	①ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。 ②学校の宿題、旅行の日程などの明確で具体的な事実を、はっきりとなじみのある発音で指示されれば、要点を理解することができる。	2年	空港や機内での放送や、友達の将来の夢についてのスピーチ、天気予報やニュース、友達の町紹介についてのスピーチ、映画ヒットチャートのランキングや、友達の好きなことについてのスピーチなどを聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。
		A2.2	①スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。 ②視覚補助のある作業(料理、工作など)の指示を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞いて理解することができる。	3年	日本文化や世界の国の文化についての友達のスピーチ、議論での話者の主張や、学校生活についてのまとまりのあるスピーチの内容を正確に聞き取ることができる。自分になじみのない場所や外国についての話を聞き、地図やグラフを参考にして、概要や情報を正確に聞き取ることができる。

【資料 4】 平成 28 年度版 NEW HORIZON 教材の配列(文法事項抜粋)と Core Inventory for General English (British Council)の Grammar レベル

1 年	CEFR レベル	2 年	CEFR レベル	3 年	CEFR レベル
I am / You are	A1	be 動詞の過去形	A1 / A2	受け身	B1
This [That, He, She] is	A1	過去進行形	A2	Would you like ...?	A2
一般動詞	A1	未来 : be going to	A1	現在完了	A2
複数形/ How many ?	A1	不定詞 : 副詞的	A2	Would you like to..?	A2
命令文	A1	不定詞 : 名詞的	A 2	現在分詞・過去 分詞	A1
Let's...	A2	不定詞:形容詞的	なし	間接疑問文	B1
Wh- 疑問詞	A1	have to / must / must not	A2	関係代名詞	B2
人称代名詞	A1	未来 : will	A2		
現在進行形	A1	接続詞 if	A2		
Can	A1	接続詞 that / when / because	A1		
一般動詞の過 去形	A1 / A2	There is	A1		
		動名詞	A2		
		比較表現	A1 / A2		
		Shall I..?	A2		

参考文献

- 投野由紀夫(編). (2013). 『CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック(CD-ROM 付)』大修館書店.
- 投野由紀夫.(2017). 「言語材料とのリンクが広げる CAN-DO の可能性」『英語教育 1, 2017, Vol.65, No.11』大修館書店.
- 文部科学省.(2008). 『中学校学習指導要領』東山書房.